

本学会が扱うテーマ

本学会は、研究開発・イノベーションに軸足を置きつつ、社会的・経済的な価値創出を目指した経営や政策に関わる「知識基盤の体系化」と「多様な経験的知識の集積」に向けて、理論と実践(ビジネス)の両面からアプローチしています。

テーマの例

- 技術経営(戦略、研究開発マネジメント、先進事例、ビジネスモデル、事業化、事業構造変革、デジタルトランスフォーメーション、教育・人材育成等)
- イノベーション創出、オープンイノベーション、起業(スタートアップ)、アントロプレナーシップ
- 産学官連携・地域連携
- 研究・イノベーション政策
- 国際化・グローバル化(競争と協調)
- 人材(育成・獲得・評価・処遇、キャリアパス)
- 分析と評価(エビデンスベーストポリシーメイキング)
- 地球課題、社会課題解決

会員

本学会は、産学官の多様な以下のような方々とそうしたキャリアを目指す学生によって構成されており、会員数は約1,000名です。(2020年4月現在)

- 企業(中小企業・ベンチャー含む)の経営者、事業企画・管理スタッフ、技術企画・管理スタッフ、研究開発マネージャー
- 科学技術・イノベーション関連政策の立案推進者
- 大学、国・公立研究開発機関の経営層、リサーチアドミニストレーター等
- 研究助成機関のプログラムマネージャー、実務者
- シンクタンクの経営者・研究者およびコンサルタント
- 科学技術ジャーナリスト、コミュニケーター等
- 研究・イノベーションに関わる技術経営・政策研究者

入会のご案内

本学会では随時会員を募集しております。
学会員になると以下が可能になります。

- 年次学術大会での発表
- 研究分科会への参加
- 共同研究、WGへの参加
- 学会誌『研究 技術 計画』への投稿及び購読

年会費(年額)

個人会員 1万円

学生会員(社会人学生を除く) 3千円

グループ会員※ 5万円

法人会員 10万円(1口あたり)

※グループ会員は、グループ代表者に加え所属部署(大学の研究室、企業の研究所、スタートアップ企業等)のメンバー4人(学生の場合は9人)まで年次学術大会・分科会等に参加できる制度です。

入会方法の詳細については本学会の
ホームページをご覧ください。

<http://jsrpim.jp/>



お問い合わせ先

研究・イノベーション学会事務局

〒135-8473

東京都江東区深川2-6-11 富岡橋ビル4F

公益財団法人未来工学研究所 気付

TEL/FAX: 03-5620-0577

office@jsrpim.jp

研究・イノベーション学会

入会のご案内



Japan Society for Research Policy and Innovation Management

目的

本学会は、

- イノベーションの創出に向けた諸課題の解決と企業経営・マネジメントの向上
- 科学技術・イノベーション関連政策の分析、評価、提言

など、研究開発とイノベーションに関する経営および政策について、学術・事例交流と先行的な情報交換を行うことを目的としています。

会長メッセージ

原山優子（東北大学名誉教授）

1985年に「研究・技術計画学会」として設立され、2015年に「研究・イノベーション学会」に名称を変更した本学会は、研究開発・イノベーションに軸足を置き、科学技術、経営、政策の視点から学術研究を促進するとともに、理論と現場のつなぎ役として機能することを目指しています。

時と共に、研究開発の意味付けは、科学技術の源泉からイノベーションの先導へと広がり、人々の行動、更には社会の価値観もその対象とされるようになってきた。これは、研究開発・イノベーションが経済活動のみならず社会の在り方にも深く影響を及ぼす時代になったことの現れであり、またこれは、研究開発の主体、更には科学技術イノベーション施策に関わる政策担当者にとって、その責務が「推進役」から「社会的責任」に拡大しつつあることを示唆しています。

これらの変化を理解し、明日の行動に結び付けていくには、現象を客観的に捉え、分析し、レファランスとなる枠組みを構築することが必要です。この一連の作業を実践し、その成果及び体験を学会の場で共有する、その主体が本学会の会員であり、そして個々の会員の貢献の積み重ねである学術的な知的体系および経験的知識の集積の一義的な受益者も会員であると認識しています。

また、これらの活動には情報収集が欠かせないが、デジタル化が進む今日でも、進行中の現象を対象とする場合、情報へのアクセス、質の担保は困難極まります。新たなツールの開拓、データマネジメントのルール作りなど、学会としての活動範囲が広がる可能性は大です。

本学会の特徴は、所属先、専門分野、過去の体験からして様々な属性を持つ会員によって構成されている点にあります。多様性と相互信頼を基軸に、真摯に討議し、行動する学会を目指し、本年度の活動を遂行して参ります。

産

INDUSTRY

学

ACADEMIA

研究・イノベーション学会

官

GOVERNMENT

学会の活動

本学会では、多分野にわたる会員により、学際的、業際的な多様な活動が行われています。

年次学術大会（毎年秋に開催）

2日間にわたり、250～300件程度の研究発表（一般講演、ホットイシュー）と、特別講演、パネル討論、シンポジウム等の多様な形式で、最新の研究成果の発表や、その時々的重要なテーマについての話題提供・討論が行われます。

シンポジウム（毎年春または夏に開催）

今日的なテーマを掲げ、基調講演、事例紹介等に続いて総合討論を行います。この他、関連学会や関連団体との共催により国際会議、講演会などを開催しています。

学会誌

学会誌『研究 技術 計画(The Journal of Science Policy and Research Management)』を季刊で発行しています。内容は会員による査読付き投稿論文(「研究論文」、「研究ノート」等)の他、その時々的重要課題・トピックに関する特集論文や論説、解説、書評、ビジネスレポート、海外レポート等からなります。また、英文による論文投稿も可能です。



研究分科会

会員の関心の高い分野について、様々な講師を招いた研究会・交流会を開催し、ネットワークを作る機会としています。また、関西地域、九州・中国地域の会員が中心となって地域支部も設置されており、地域内の研究交流の促進に取り組んでいます。尚、分科会は随時設立条件が満たされた段階で理事会承認後設立されます。

研究分科会・支部一覧

- 科学技術政策分科会
- 国際問題分科会
- 人材問題分科会
- 研究戦略・評価分科会
- 研究行動・研究組織分科会
- イノベーション交流分科会（ブレイクスルー研究会）
- 研究基盤イノベーション分科会
- 女性エンジニア活生分科会
- イノベーションフロンティア分科会
- プロデュース研究分科会

- 関西支部
- 九州・中国支部

※この他、新規課題や新興の研究分野については「研究懇談会」を適宜設置し、研究交流を行っています。

- 科学技術イノベーション政策の科学研究懇談会
- 科学技術イノベーション政策の社会的インパクト評価研究懇談会